

## はじめに

---

RSLセンター センター長  
箕浦 真生

5歳くらいの子供が、何かを買ってくれと言っている(ように聴こえた)。マニラの高層ビルのすぐそばに対照的な集団住居が建ち並び、そこを歩いていた時のことである。2月のマニラの汗ばむ陽気の中、フィリピンの Trinity 大学学長に会いに行った。フィリピンには200万人もの子供が教育を受ける機会が乏しく、路上で「働く」ストリートチルドレンが20万人にも上るといわれている。

持続可能な開発目標(SDGs)は、「貧しい人々が取り残され、地球環境は悪化しており、このままでは世界が立ち行かない」という強い危機感のもと作られた目標であり、2030年のゴールまであと7年である。目標の1-4は貧困・飢餓・健康・教育に関するものであり、前述の子供達の7年後を思うと焦りを感じずにはいられない。

共生社会の担い手としてのシティズンシップを涵養する正課「立教サービスラーニング(RSL)」は2016年度に全ての学部生を対象に本格開始して以来、社会の現場での活動と学問的な学びの統合を目指す実践型プログラムとして、多様な学びの機会を学生に提供してきた。

社会に貢献する中で他者を理解する能力を培う RSL は、本学の建学の精神・理念を表す"Pro Deo et Patria"を具現化する重要な学びと位置付けることができ、SDGs とも親和性が高いものである。その中の展開科目の一つに、「RSL-グローバル(フィリピン)」が開講\*されており、サービスラーニングの教育活動で歴史のあるマニラの Trinity 大学と協働・活動し、実体験を通じてグローバルな視点での地域社会の理解を深める機会を提供し、互恵的な交流を期待するものである。

「持続可能な社会」に貢献できる人材育成は大学の使命の一つでもあり、2022年度には、社会の動向や本学における研究・教育の深化を踏まえて RSL 開講科目の拡充を図った。「SDGs と現代社会の課題とその関わり方入門」、「カーボンニュートラル人材育成講座」は RSL 講義系科目として新設し、担当教員の方々のみならずゲストスピーカーの方々の最先端の思慮深い講義展開は履修者からも大変好評であった。RSL 実践系科目である「RSL-ローカル(地域共生)」、「RSL-グローバル A・B(2科目)」においては、農福連携、食農フィールドワークや海洋環境についても課題を提示し、SDGs を自分事として理解するための仕組みを提供する貴重な実践機会である。

大学の大きな使命は研究・教育・社会貢献の3点である。また本学の理念を具現化する RSL の活動も含め、いずれも遠くを見通す確かな視力と広い視野が必要である。RSL センター運営は、担われている教職員、教育研究コーディネーター、講義・実践系のご担当の方々、学生受入れ協働先機関各位のご協力によって大変丁寧に進められてきたことは言うまでもない。ここに改めて関係皆様方のご尽力に感謝申し上げる次第である。

\*「RSL-グローバル(フィリピン)」は、COVID-19 の影響により 2020~2022 年度は休講、2022 年度には正課外プログラムとして開講し、2023 年度は正課プログラムとして実施予定。